

「おいでよ街コン！」

### ●街中公園・早朝

11月のとある朝、一人の男がやってきた。影のようにひそやかに。紙の束を抱えつつ。

その日、来伊花市街中町（こいはなしまちなかちょう）の各所には、一枚の告知ポスターが貼り出された。

——街をキレイに、おいでよ街コン【12月開催】——

——主催：街中町ボランティア団体『お掃除隊』——

——参加資格：雑霊退治及びお守り使用可能な方——

### ●山の上神社

鳥居から社にかけての長い砂利道。その先の、広くて寂れた境内で、日焼けした肌の女が嘆いていた。

「減るがいい。過剰なものは減るがいい」

艶のある見事な上腕二頭筋を、隠すように抱きしめて。

「過剰な想いも妄執も、余計な恋情、妬心に羨望、出会う運すら減るがいい」

癖の強い長い茶髪が、強い風に巻き上げられた。うつろな瞳で立ち上がる。

「減らして消してしまうため。すべてすべて、あたくしが切り捨ててあげますわ」

長い棒状の得物を手に、ゆらりと立ち上がる。

《祭主》樋口一葉 [ひぐち・いちよう]。ボンテージ風ビスチェにスパッツ、片袖抜いた長丈浴衣のその姿は、優に2メートルを超えていた。

### ●駅前広場

告知ポスターを横目でチラチラと見やりつつ、それどころではない、と唸る少女がひとり。

「だれぞ、だれぞおらんか。山の上のでかおんな、もといつ、縁切り一葉を、退治しようという、つわものは」

鮮やかな刺繍小袖に市女笠、長い黒髪の小柄な少女は、指さした。広場の隣の小さな神社、その社務所を。

「われ、信濃の巴 [ともえ] が約そうぞ。出会いの益をもた

らすことを。われこそはと思うなら、薙舞神社（なぎまいじんじゃ）へ来たるがよい」

シリアスな叫びの後、ひゆるりら、と風が吹いた。

広場の隅で、掃除途中の老女がふたり、拍手した。少女の声を聞いていたのは、そのふたりだけ。

「平日昼間はこんなもんさの～」

「巴御前 [ともえごぜん] はご苦労なさつとの～」

巴の足元で、子猫が一匹、にゃあお、と鳴いた。

「……くつ、なぐさめなどいらぬ。そんなことより、あのでかおんなを早くなんとかせねば。町中の恋する者たちが、縁切りされてしまうではないか。ポスターのイベントさえも。

……うう、今度は夕方頃にやるべきか」

### ●商店街・お掃除隊事務所・朝

本日、お掃除隊の朝礼は、一部緊張感がみなぎっていた。

「よろしいですか、みなさん。そもそもお掃除隊とは！」

広い室内に、瑞月純子 [みづき・すみこ] の声が響き渡った。

まとめ髪に地味スーツ。膝丈タイトスカートに、足元はローヒールの黒パンプス。銀縁眼鏡はややつり目の印象で、いかにも一昔前のお局さま（三十路断定）、な姿である。

「宮内庁陰陽課長野支部有志により、皆様のお役に立つことを目的とし、街をキレイにする名目で設立された《<sup>ノーライフ</sup>雑霊

退治用、一部清掃活動あり、なボランティア団体です」

「せつめー的な上に、ぶっちゃけ建前だの～」

部屋の隅からの一言を、純子は見事にスルーした。「——何かと忙しい《<sup>チェイインド</sup>祀徒

》のため、出会いの場を提供せんと昨年より立ち上がり、街ぐるみの大規模合コン、街コンを開催するに至りました」

「ものは言いよう、使いよう～」

再び聞こえた声を、純子はまたも華麗に黙殺した！「……参加者が《<sup>チェイインド</sup>祀徒

》であるため、交流を深める手段は《<sup>ノーライフ</sup>雑霊

》退治となります。そして手段が目的に勝ることがないよう、専用アイテムをご用意しております。いわく、縁結び神社の恋守り。瑞月神社で大人気、絶賛好評販売中」

言いつつ、純子は、手にした赤いお守りを掲げた。すると。「強制らぶも、らぶのうち～♪」

「強制はんたーい、やっぱそこはナチュラルに一」

歌うような声の後、眠たげな青年の声が異を唱えた。

三度目の合いの手に、純子はフフフ、と笑ってみせた。  
「アイテム効果につきましては、未だ独身な我が代表、瑞月純生 [みづき・すみお] が実演いたします。さあ、ご覧あれ」

瞬間、部屋の隅で、つぶれた蛙のような悲鳴が上がった。  
床に転がる純生の背には、巫女装束の女の膝が三人分。

純子は素早く歩み寄り、お守りの中身を突きつけた。純生がそれを見たことを確認し、その目を巫女のひとり、涼宮松藤 [すずみや・まつふじ] に向けさせる。

そして純生は――。

「……ああ、松藤さんっ、オレはあなたに出会うために生まれてきましたっ。好きです、愛してますっ、その真っ白な髪も、黴のひとつひとつさえもが、オレの胸を高鳴らせるのですっ。どうか、オレにあなたの笑顔を見せてください。それだけでオレはこの世で一番幸せな男になれるっ」

巫女装束の涼宮三姉妹は、街中町名物、お守り売場の看板娘たち――平均年齢還暦プラスアルファ――である。

転がったまま、熱っぽい視線でうっとり松藤に語りかける純生の姿を手で示し、純子はにっこりと営業スマイル。

「初めて会う人で行く、共同作業の《<sup>雑</sup>霊退治。ちょっぴりドキドキ、ハラハラして、吊り橋効果も抜群です。好みのタイプがいなくても大丈夫。お守り効果で、恋する気持ちダケでも味わえます。他人に使った場合は約30分、自分に使った場合は1時間弱と、安心の時間制限付き。効果後の行動等は個人差がありますので、不安が残る方は」

純子はパン、と手拍子一つ。巫女たちが、事務所備品の梱包用ビニールテープを手に、純生をぐるぐる巻きの簀巻きにした。口には当然のように、ガムテープ。素早い。

「ううっ、ううー？」

「当事務所にて、時間切れまで保護する用意がございます。遠慮なく、お気軽に、お掃除隊へご依頼ください」

きれいにまとめた純子に、簀巻きに腰かけた巫女たちが順繰りに言った。

「募集練習が、すり替わっとの～」

「依頼募って、どうするつもりかの～」

「お局も独り身なのに、ほんに世話好きだの～」

純子はハッと我に返って、反論した。

「気がついた時点で指摘してくださいっ。そのために来ていただいたんですよ。もう、なんでみんな、縁談やら結納や

らお見合いやらで引退なのよっ。人手不足で、ホント冗談じゃないんだからっ。あと、お局ゆーなあっ」

#### ●街中公園他各所・早朝

くたびれた様子の男が紙束とともに再訪し、去った後。ポスターは、一枚余計に増えていた。

――『お掃除隊』スタッフ募集のお知らせ――

――仕事内容：街コン企画や町中清掃、他――

――駅前商店街、事務所・瑞月純子まで♪――

#### ●瑞月神社・深夜

ポスターを見て、楽しげに笑う人影ひとつ。

金の巻き毛にゆったりワンピースの後ろ姿は、半透明。

「すみちゃんと一、ともちゃん。頑張ってくれるかなあ。

ともちゃんは、いっちゃんの方にかかりきりになっちゃうかな。

どっちでもいっか。みんなみんな、恋してくれるといいなあ」

---

#### ■マスターより

はじめまして。こんにちは。マスターとして参加させていただくこととなりました、空科志城子（そらしな・しきこ）と申します。

アイテム使用で、恋愛状態を疑似体験しちゃいましょう、という、ドキワクハラヒェ〜な恋愛系ストーリーです。

もれなく雑霊退治がついてきますが、恋に故意にドキドキしたり、筋肉にワクワクしたり、少女の主張にハラハラしたり、お守り効果にヒェ〜な事態になったり、いろいろな楽しみ方が可能となっております。どの道を逝くも、もとい、辿るのも、参加者のみなさま次第でございます♪

できれば、目指せらぶらぶ♪ な方向で。らぶらぶは重要です。らぶこめは正義です。らんだむはお楽しみです。

なお、お守り効果に男女の別はありませんのでご注意ください。

#### ■シナリオの目安

危険度：★

対応人数：★★

キーワード：「疑似恋愛体験」「勝手にふぉーりんらぶ」「結婚

運上昇の祟り」「薔薇も百合も恋の内」

■関連行動選択肢

A033400

「お守りを買って、街コンに参加」

※備考：お守りは使用前提。使用するタイミングを指定したい場合、あるいはまったく使いたくない場合は、アクションにて一言お願いします。なにもない場合は、どんな場面で使用状態になっても、恨まないでください。なお、お守りはターンを越えて持ち越すことはできません。

A033401

「巴または一葉に会いに行く」

※備考：巴は薙舞神社、一葉は山の上神社にいます。なお、出会いの益とは、出会い運上昇のご利益です。

A033402

「お掃除隊に入隊希望」

※備考：制服は基本、白い着物と赤袴。男性大歓迎。

---

個人としてゲームを楽しむための交流の範囲を越えない場合に限り、この「初期情報」の複製、サイトへの転載を許可します。著作権等の扱いについては、公式サイト (<http://else-mailgame.com/gddd/>) を参照ください。

copyright 2012-2013 ELSEWARE, Ltd.

---